

## 令和5年度第3回学校運営協議会(全日制部会)

日時：令和6年2月9日(金) 15:30~17:00

場所：寝屋川高等学校 セミナー3F

### 出席者

〈学校運営協議会〉※敬称略

川村 幸治、若林 勲、宮崎 浩太郎、大橋 保基、奥田 二三夫

公務のため欠席：中村 俊一

〈学校〉

石村 佳之(校長)、住友 敏弘(事務部長)、笠原 英樹(教頭)、

水野 剛幸(首席)、田頭 修(指導教諭)、寺田 史子(進路部長)、

表口 哲史(保健主事)、眞野 光平(情報部長)、中河 徳治(第1学年主任)、

牧野 聡(書記)

公務のため欠席：原田 達也(人権教育推進委員長)

1. 会長挨拶
2. 校長挨拶
3. 確認「教員の授業とその他の教育活動に関する意見書」について  
教頭より、「なし」の報告
4. 説明
  - (1) 令和5年度学校経営計画の評価および令和6年度学校経営計画について校長より説明
    - ・学校教育自己診断の結果と分析について
    - ・学校運営協議会からの意見について
    - ・本年度の取り組み及び自己評価の自己評価項目について
      - ・数値は昨年度との比較も行うが、数値結果そのものについての評価も載せている。
      - ・コロナ禍も落ち着いたので国際交流の欄を令和5年度に新設した。  
参加者の満足度はオーストラリア、台湾ともに100%でとても高かった。
      - ・時間外勤務は昨年度から教員の協力もあり15%減と大きく削減できた。

(2) 授業アンケート(12月実施)結果について教頭より説明

- ・前期アンケートも非常に高い評価だったが後期では更に高い評価となった。
- ・生徒の評価の高い授業では「わかりやすさ」「授業中の生徒のアクティブさ」を評価されていた。
- ・授業のスピードが早いので、授業スライドなどを事前配信してほしいなどの要望もあった。
- ・授業で生徒を指名する際、その方法についての意見が散見された。

(3) 学校教育自己診断について首席より説明

- ・生徒評価は右肩上がり、保護者評価、教職員評価は横ばい・微減ながらも数値としては高い。
- ・生徒回答について
  - ・進路選択についての項目は肯定的意見が多い。
  - ・家庭学習の時間の確保、スケジュールの自己管理などの項目は肯定的意見が他よりも低い結果だった。
- ・保護者回答について
  - ・設備面についての項目は低い数値ながら微増。  
→設備の充実については今後も改善を考えている。
  - ・生徒の学力向上についての項目、学校の期待への応え方の項目は減少。
- ・教職員回答について
  - ・昨年度の数値が非常に高かったため、増加項目は1つのみ。
  - ・事象の改善体制についての項目は他より低い数値になっている。
  - ・生徒への貢献度の項目についても減少。
  - ・一斉退庁日の設定によって効果を感じている回答が70%程度。

(4) 学力向上委員会について指導教諭より説明

- ・学力向上について授業力、指導力にICTを如何に組み込むかを議論した。
- ・教務より授業見学を含め、指導力の向上。
- ・進路より学力向上目標達成シートやスタディサプリの活用。
- ・情報よりICT機器に触れる機会を確保
- ・学力向上目標達成シートについて
- ・研究授業にも関連させられるよう教科に協力を要請した。

(5) 進路部長より説明

- ・76期生の進路状況について
  - ・共通テストについては全国平均の伸びよりも校内平均の伸びの方が高い結果であった。
  - ・私立大学希望者は例年並み。
    - ・学校推薦型公募制入試の結果は昨年度より高い結果が出ている。

- ・国公立希望の3年生は現在も学校に通い、教員へ質問に来るなど粘り強く励んでいる。
- ・77期生、78期生の状況について
  - ・土曜講習についての参加人数は上昇。
  - ・スタディサプリについて、使用回数の上昇も見られる。
- (6) 人権教育推進委員会について教頭より説明
  - ・各学年の取り組み
    - ・1、2年生は性的マイノリティ問題(6月実施)
    - ・3年生は同和問題(7月実施)
    - ・1年生拉致問題学習(9月実施)
  - ・学校教育自己診断アンケートについて
    - ・生徒回答の数値の上昇はアンケートのタイミングが研修後だったことも要因と思われる。
    - ・教職員からも高い評価を得ている。
- (7) その他
  - ・77期修学旅行について教頭より説明
    - ・海外や個人では体験出来ないことをテーマに12月実施
    - ・フジテレビの番組制作体験など
  - ・国際交流について校長より説明
    - ・夏にオーストラリア研修、冬に台湾研修を実施
    - ・台湾の姉妹校と4年ぶりの交流を行った。
    - ・姉妹校としての調印は2016年。調印後隔年で交換留学を行っていた。
    - ・来年度は1月末に受け入れ予定。
    - ・事前研修として中国語、台湾語の研修を行い、遠隔での交流も行っていた。
    - ・1年生の暗唱コンテストのタイミングで研修発表を生徒たちが行った。

## 5. 協議

- ・令和6年度学校経営計画について校長より説明
  - ・校舎の改築にあたり、未来型の教育を研究することの追加。
  - ・2(4)の総合的な探究の時間についてのさらなる充実を図る。
  - ・3(4)発生が予想される自然災害への対策としてSNSを活用した安否確認の実施。
  - ・3(7)先進校視察は来年度も引き続き行う。
- ・各報告を受けての協議を川村会長の司会で開始

- (若林)：生徒のアンケートの高い評価が得られていること、教職員の取組、頑張りの結果であり、素晴らしいものである。  
教職員の働き方の改善、その中でも授業力向上や部活動のバランスなどは引き続き考えていく事案である。  
生徒たちのこれからの学力以外の向上(人権教育や国際交流など)へ向けた取り組みも継続を期待する。
- (宮崎)：生徒たちの満足度が高いという結果が何よりである。  
今後校舎の改築もあり、生徒たちは窮屈な部分も強いられるが、そこをどう乗り越えていくのかが課題である。  
最近の発表における志願者の割合の減少は厳しいが、引き続き努力してほしい。
- (奥田)：資料から教職員の努力はよく見られるが、学校教育自己診断の結果について気になる部分がある。教育目標の共有の減少、生徒が授業での頑張りに対して自宅学習や自己管理の部分で努力できない。保護者の方の評価は少し低いように見えているが、卒業後の満足度は高い。このギャップをどう埋めるのか。保護者が本当に求めているものはなにかを知る必要がある。
- (川村)：奥田委員の発言にあった生徒の自助については大阪府全体としての問題である。環境が整いすぎると生じる部分もある。学校として人権教育に関しての意識は非常に高くなっていることを感じる。取り組みを満遍なくやっていることはよく分かるのであとはその質を如何に高められるかが課題である。